

Samejima, J. & K. Samejima (1962). Studies on the Eastern Asiatic *Trillium* (Liliaceae). Acta Horti Gotoburg. 25: 157-257. 佐々木豊 (1973). 石巻市牧山の自然植生と注目すべき植物. 宮城の植物 1: 1-9. Takahashi, M. (1983). Pollen morphology in Asiatic species of *Trillium*. Bot. Mag. Tokyo 96: 377-384.

(北海道大学 農学部附属植物園)

□山岸高旺・秋山 優 (編): 淡水藻類写真集 1 巻 (Yamagishi, T. & M. Akiyama ed.: Photomicrographs of the fresh-water algae. Vol. 1.) i-viii+100 pp. 1984 内田老鶴園, 東京. ¥4,000. 先に大冊の淡水藻図鑑(1977)の出版があり, 日本の淡水藻の同定はたいへんやりやすくなったが, さらにより正確にそして容易に種を同定するための資料作りを目指し, 上記図鑑の執筆者であった山岸・秋山両氏が中心となり, 淡水藻写真集の作成が進んでいると聞いていた。このたびその第 1 巻の刊行を見た。裏白の B 5 判厚手アート紙 1 頁に 1 種を扱い, 計 100 種を収録している。図は顕微鏡写真図を中心とし, 必要に応じて走査電顕図や線画を併用し, それは全体の約 1/2 を占める。種名のあとに主要文献, 次いで和英両文による分類形質, 生育場所, 分布などの記述が続く。淡水藻の多くは微細で, 顕微鏡によらないと同定が困難である。ところが顕微鏡で見る像は線で描いた図とかなり違った印象を与える。この写真集は藻体の実像をとらえる面で大きな助けとなってくれる。編者等によると, このあと年 2~3 巻の割合で刊行を続け, 国外産も含めて合計 2,000~3,000 種の収録を目指すという。原稿の出来た 100 種ごとに順次収録するので, 最終的には読者の目的に応じて再編集の必要が起る。その便のために, 収録分類群には新たに編者が作った分類コード番号が付してあり, 裏白の頁はルーズリーフ式に綴じようになっている。当座は, 検索表がなく収録種数も少ないので, この写真集のみによる種の同定は実際的でない。同一出版社の刊行による日本淡水藻図鑑 (1977) と併用することにより一層の効果を挙げることが出来る。先の図鑑に続き, 淡水藻の分類資料の作成と刊行に努力される山岸・秋山両氏と内田老鶴園の労苦を多とし, 今後の順調な刊行を期待したい。(千原光雄)

□Kitagawa, H. & P.G. Glucina: **Persimmon culture in New Zealand** 74 pp. 1984. DSIR Inform. Ser. no. 159, Wellington. \$NZ. 11.95. 日本の秋を色どるカキは, またニュージーランドの秋をも色どるものである。しかし今日に至るまで, ニュージーランドでは一般的な果実とはなり得ていない。そこで, これを日本向けの輸出果実として考え, 栽培を盛んにしようという目的で, カキの生物学を詳しく取りまとめ, カキの栽培技術まで解説している。使用されている写真やデータは, ほとんど日本のものである。植物学的にも興味深い解説書となっている。(井上 浩)